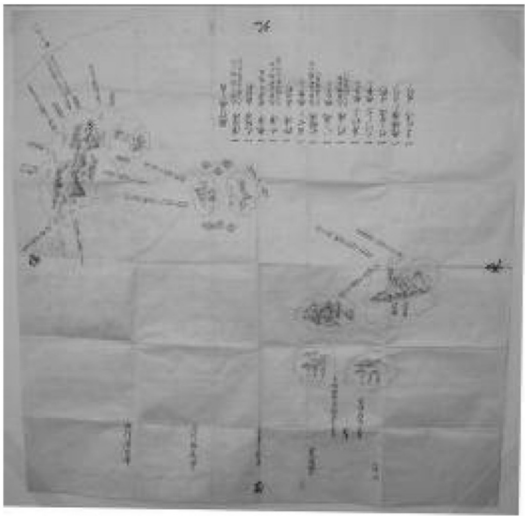
Ⅳ鳥取藩政資料に含まれる竹島絵図について

鳥取藩政資料には「小谷伊兵衛差出候竹嶋之絵図」1点、「竹嶋之図」として4点、合計5点の絵図が残されている。以下、若干の考察を加えながら各絵図を紹介する。

⑴「小谷伊兵衛差出候竹嶋之絵図」



全体図

この絵図は、標題のとおり小谷伊兵衛によって江戸幕府へ提出された竹島絵図（控か？）である。小谷は、元禄2～13年(1689～1700)にわたり、鳥取藩の聞役（江戸留守居役）を勤めた。同絵図には、出雲国から隠岐、松島（竹島／独島)、磯竹島（鬱陵島)、朝鮮まで、島の形状、島内の様子、各島間の距離などが詳細に描かれている。

「竹嶋之図」4点と比較すると、この絵図の特徴がより明確になる。すなわち、表1は各絵図の記載内容を比較したものであるが、同表より相違点を列挙すると、

① 出雲国雲津～隠岐､隠岐国焼火山～福浦､福浦～松島までの距離が異なる

② 「竹島」を「磯竹島」と表記している

③ 竹島・松島に小屋場や船据場、鉄砲場（ニホンアシカの猟場)、大廻りなどの記載がある

④ 他の絵図が「古大坂浦」としている浦を「大坂浦」とし、「大坂浦」とする浦を「蛇浦」としている

⑤ 朝鮮国のことを「かうらい」とし、竹島から朝鮮国までの距離（50里）の記載がある

などがある。また、絵図の端には竹島におけるアワビ・ニホンアシカの猟場が記されており、これも他の絵図と異なる点である。この絵図の作成にあたっては、内容の詳細さから大谷・村川家所持の絵図を参照した、もしくは、実際に竹島・松島へ渡航していた水主らへ聞き取りを行ったことが推測できる。

絵図の作成年代は、鳥取藩が竹島・松島についての幕府からの問い合わせに対して提出したものであること、小谷伊兵衛が聞役であった期間に作成されたものであることから、元禄5～9年の間と推測される。なお、「竹嶋之書附」の中に「小谷伊兵衛差出候竹嶋之書附」という記録が収録されているが、これは、元禄9（1696）年1月25日、小谷伊兵衛が幕府に対し提出した松島渡航に関する問い合わせの回答書である。この回答書には、出雲国雲津から竹島までの道程と距離を記載した部分があり、この記述は絵図のものと一致し、回答書とともに提出された可能性が高い。

（元禄9年1月25日の書付の記載）

一、伯耆国米子より出雲雲津迄、道程拾里程

一、出雲国雲津より隠岐国焼火山迄、道程弐拾三里程

一、隠岐国焼火山より同国福浦迄七里

一、福浦より松嶋江八十里程

一、松嶋より竹嶋江四十里程

右　竹島部分拡大図
左　松島部分拡大図

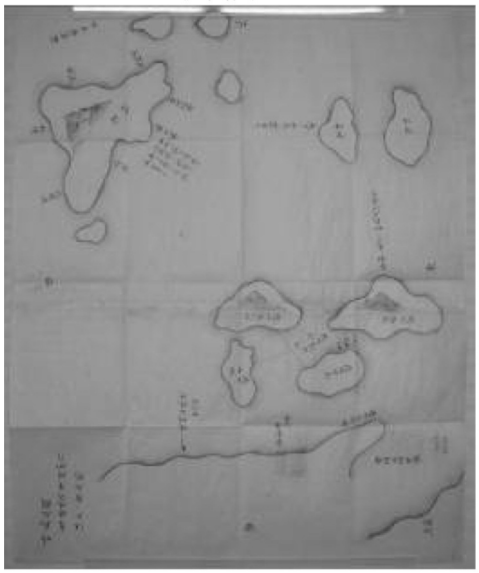
表１　各絵図記載内容一覧

		小谷伊兵衛差出候竹嶋之絵図	竹嶋之絵図			
			享保９年幕府提出絵図	A図	B図	C図
伯耆国記載		×	○	×	×	×
航路		雲津～隠岐23里 焼火山～福浦７里 福浦～松島80里 松島～竹島40里	雲津～千振18里 中島～福浦８里 福浦～松島60里 松島～竹島40里	雲津～千振18里(朱引) 千振～松島60里(朱引) 松島～竹島40里(朱引)	中島～島後８里 福浦～松島60里	雲津～千振18里 中島～福浦８里 福浦～松島60里 松島～竹島40里
松島	付属島	6	0	4	0	12
	小屋場	1	0	0	0	0
	記載	船すへ場、 松島大廻り30町	なし	島間40間計	島間40間計	ハマ２、小ハマ、 平瀬、 瀬戸長サ２丁
竹島	付属島	2	4	12	4	10
	小屋場	6	0	0	0	8
	地名記載	浜田浦、竹浦、北国浦、 柳浦、北浦、蛇浦、 大坂浦、まの島、 とうせんかはな	浜田浦、竹浦、 北国浦、柳浦、 北浦、大坂、 古大坂浦	浜田浦、蔵本、 竹浦、北国浦、 柳浦、北浦、 大坂、古大坂浦	浜田浦、竹浦、 北国浦、柳浦、 北浦、大坂、 古大坂浦	浜田浦、竹浦、 北国浦、柳浦、 北浦、大坂、 古大坂浦
	浜田浦記載	なし	此処へ船入津、併南風ニハ船懸り難く御座候ニ付船居置申候	此所へ入津、併南風ニハ船繋カレス灘へ居置	此処船入津仕候、併南風ニハ船懸り難く灘へ船居置申候	此所入津、併南風ニハ舟かかりガタク舟ヲスへ置也
竹島	島内記載	磯竹島、 大廻り７里半	なし	竪一里計、横十里計竹林 島ノ内七瀬。二瀬八十四、五間計、五瀬ハ小川此ハへノ内大木色々アリ。但桧杉ナシ	なし	なし
朝鮮の記載		○（かうらい） 竹島～朝鮮国50里程	○（朝鮮）	×	×	○（朝鮮）

⑵竹嶋之図

「竹嶋之図」とは、解題でも述べたとおり、「竹嶋之図」と記載された袋に一括された4点の絵図のことである。以下、各絵図について、その記載内容とそれぞれの絵図の関連について検討する。

提出図写

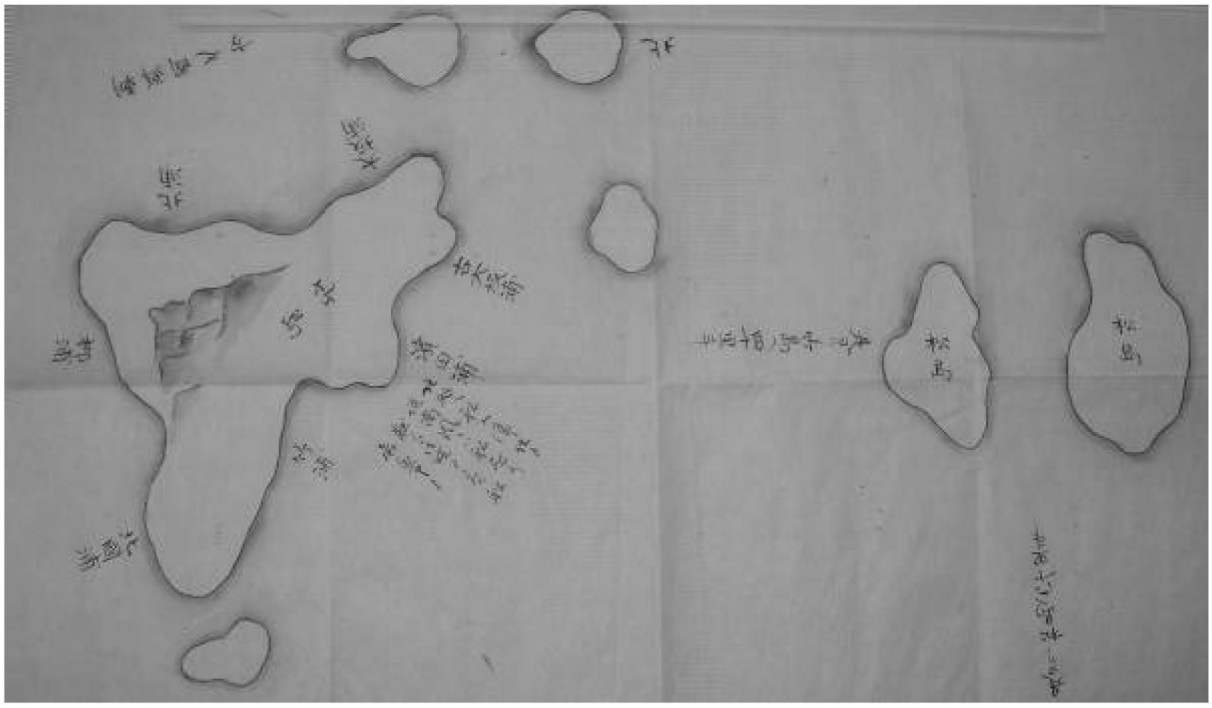


①享保9（1724）年閏4月　幕府提出図写

この図は、享保9年閏4月16日、幕府勘定奉行筧播磨守へ、竹島渡海に関する問い合わせの回答書とあわせて提出されたものである。

この提出絵図作成に関して、「竹嶋之書付」に以下のような記載がある。

逐て申上候竹嶋委細之御書附、并竹嶋絵図等認直シ、筧播磨守殿江差出申候処、去月廿八日之晩播磨守殿江被召呼、左之通御尋御座候。急ニ可被仰上候



竹島・松島部分拡大

4月16日に書付と絵図を提出したところ、筧播磨守より28日の晩に呼び出しがあり、追加の質問を受けた旨が記されている。その後、この指示を国元へ報告した。

また、引用史料中に「竹嶋委細之御書付、竹嶋絵図等認直シ」とあり、提出絵図作成までに何度か描き直しが行われたことがわかる。この記載から、同封された残りの3点の絵図が、描き直しの際の下絵、もしくは参考図と考えられる。

さて、絵図の記載内容は、伯耆国から出雲国、隠岐、松島（竹島／独島）、竹島（鬱陵島）に至る道程や距離、それぞれの島などが描かれているが、前記「小谷伊兵衛差出候竹嶋之絵図」と比べると、必要最小限の情報しか記載されていないことが特徴である。

②「竹嶋之図」に含まれる下図３点

これらの絵図は、前記のとおり、享保９（1724）年に幕府へ提出した絵図（提出図）の下絵、もしくは参考図と考えられるものである。以下、資料番号8440をＡ図、8441をＢ図、8442をＣ図とし、表１を参考に提出図とＡ～Ｃ図との関係を検討する。

画面構成

提出図の画面構成は、伯耆国～出雲（島根半島）～隠岐～松島～竹島となっている。これにもっとも近いのはＢ図である。ただし、Ａ～Ｃ図のいずれにも伯耆国の記載はない。

料紙の種類や形状、墨の色づかいが、提出図とＡ・Ｂ図はほぼ同じであり、同一の系統に属す絵図、おそらく下絵と考えられるが、Ｃ図は全く異なっている。

航路の記載

提出図の「航路」の記載内容は、表１からＣ図を参照に記述されていることがわかる。Ａ、Ｂ図は、松島～竹島間の距離が記されていない。また、Ａ図は隠岐島から松島へ向かう出港地が、本来の「福浦」ではなく、「千振」となっている。

松島の記載

提出図の「松島」部分の記載内容は、島の形状はＡ～Ｃ図いずれも異なっているが、付属島が全く記されていない点はＢ図に近いことがわかる。

なお、提出図には、松島の島間の距離が記されていないが、Ａ・Ｂ図には40間（約72m）と記載される。また、Ｃ図の松島の記載は、浜辺の場所や瀬の様子が具体的に描かれている。

竹島の記載

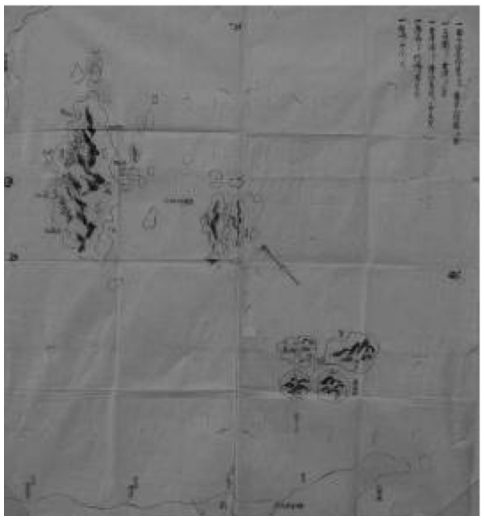
提出図の「竹島」の記載内容は、地名や船着場である「浜田浦」の記述、付属島が４島描かれている点から、Ｂ図がもっとも近いことがわかる。ただし、「朝鮮」の記載はＡ・Ｂ図ともないが、Ｃ図にはある。

Ａ図には、島内の竹木や川の様子、他の絵図には見られない「蔵本」浦の名称など細かく記されている。また、Ｃ図は、島内の小屋場や山川の場所が詳細に記されており、竹島へ渡海経験のあるものが記した、もしくは経験者から聞き取りを行った上で作成されたものと推測できる。ただし、前記の「小谷伊兵衛差出候竹嶋之絵図」とは、表１をみてもわかるとおり、竹島の浦の場所や雲津～竹島までの道程・距離に違いがあり、両者は別系統の絵図である。

以上のように、提出図とその他３図の記載内容を比較すると、Ｂ図が提出図にもっとも近い図であるといえる。また、提出図完成までの過程を推測すると、まずＡ図が作成され、その後、松島・竹島の記載事項に若干訂正を加えたＢ図を作図し、さらにＣ図により航路の記載や「朝鮮」の記述を補い、提出図が完成されたと思われる。ただし、下図や参考とされた図は、「竹嶋之図」に同封された３点以外にもあることが十分考えられる。

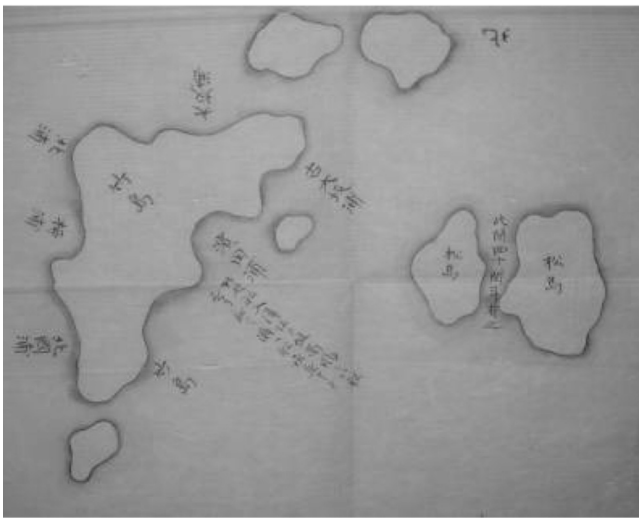
A図

B図

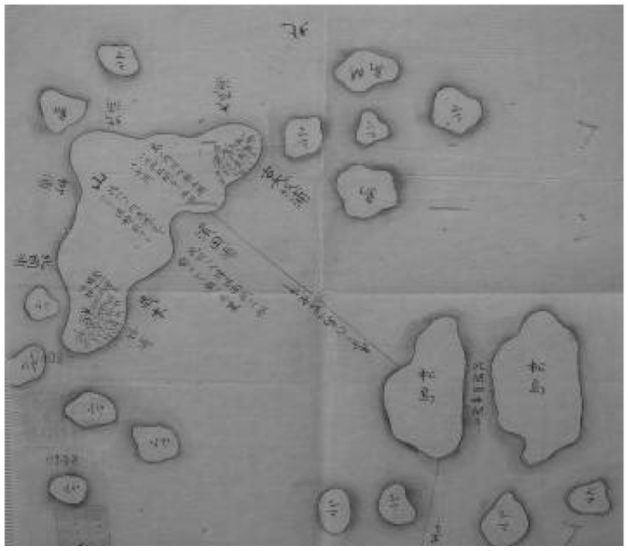


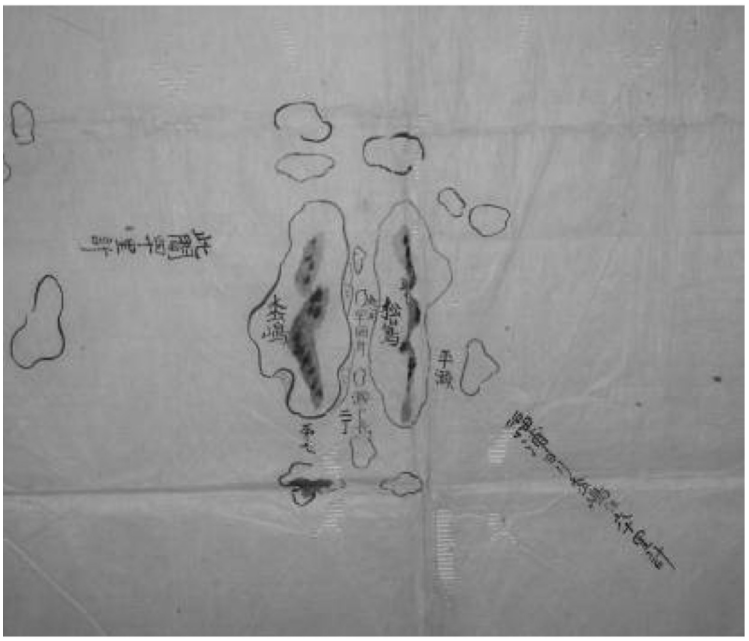
C図

B図　竹島・松島部分拡大

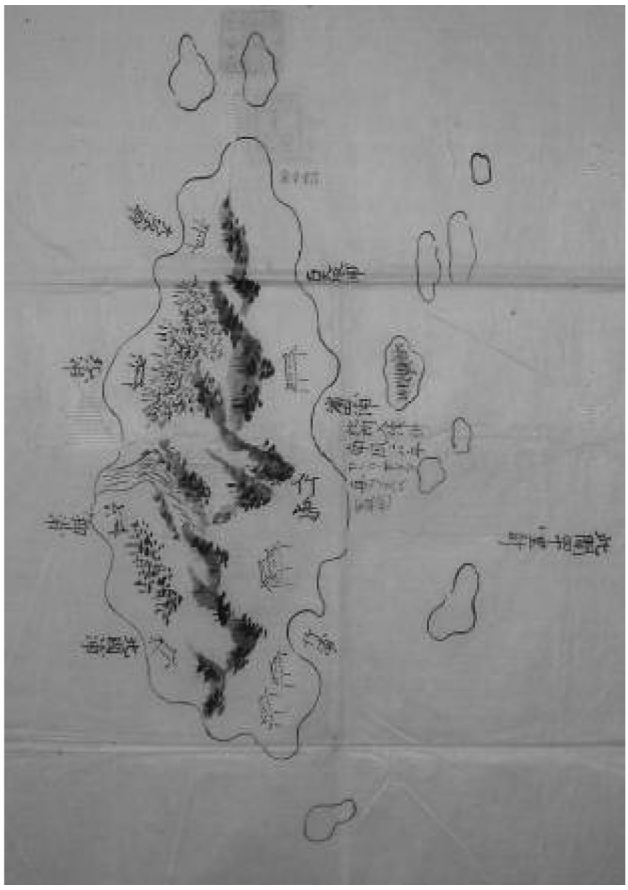


A図　竹島・松島部分拡大





C図　松島部分拡大



C図　竹島部分拡大

付記

本資料集の編集は、鳥取県立博物館長三田清人のもと、学芸課人文担当学芸員大嶋陽一が行い、石田敏紀、来見田博基が補佐した。